

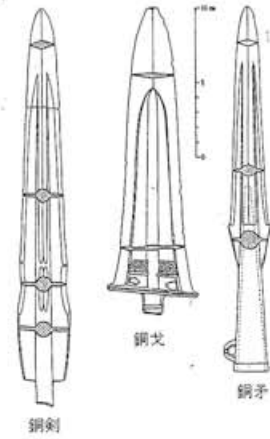
# 弥生時代の開始と中国、朝鮮からの文化の流れ

掘された下駄が展示されているのを見て、半世紀近く前の発掘現場の思い出がいっきによみがえったことであつた。

8. 半世紀余りの間に渡来(系)文物にかかわる発掘資料の集積と個々の遺物や遺構の検討、分析はずいぶん進んできた。一方で渡来民が各地でどのような社会を形成し、その後、地域にどのように根付いていったかという点については必ずしも多く議論されていまいように思う。

今回の発表では、陶邑窯業地帯、都屋北遺跡、大津北郊地域を取り上げ検討する。

なお、古墳時代をとおして全国で最大の窯業地帯であった陶邑古窯址群で発掘された須恵器(重要文化財)を保管していた大阪府立泉北考古資料館が廃館されたことは、大阪府等が推進している百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録へ向けた運動と大きく矛盾することを指摘しなければならぬ。



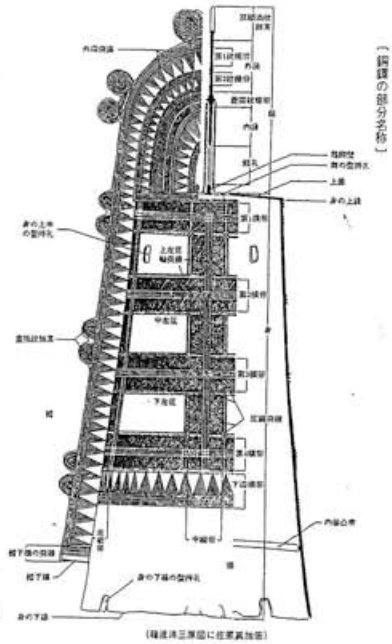
6. 朝鮮製の青銅製武器(宇木汲田遺跡)

矛…矛盾

ほこ「矛楯(しけん)」の矛にあたる。鈍とも書く。突くという機能は槍やりと変わらないが、刃の根元を中空に作り柄の先をさし入れるのが矛。

戈……戦

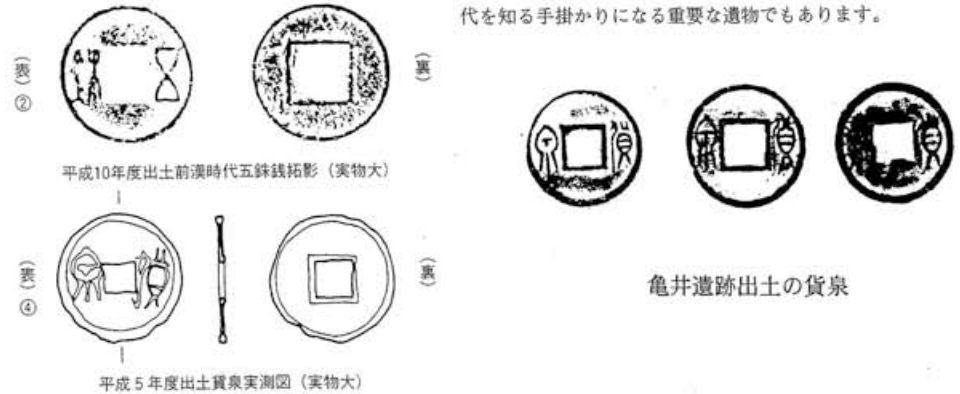
か 戦という文字の旁つくり。戦うことを干戈(かんか)を交えるとも云う。柄先近くに交叉するように斜め方向の刃がのびる。柄をきって敵にうちこんで使う。



佐原真、金関恕編『銅鐸から描く弥生時代』

学生社 2002年11月による

現在までに原の辻遺跡からは、「五銖銭」が1枚、「貨泉」が4枚、合計5枚の貨幣が出土しています。「五銖銭」とは、中国の前漢(紀元前202-紀元8年)の武帝が紀元前118年にはじめて鑄造した貨幣で、その後も隋(581-618年)に至るまでの数百年間中国で流通しました。重さが5銖あるところからよばれています。中央の方孔(四角い穴)の表面右側に「五」、左側に「銖」の字を鑄っています。原の辻遺跡から出土したものは法量(寸法や重さなど)や文字の特徴から前漢時代のもと考えられます。「貨泉」は、前漢の次の新(紀元8-25年)の王莽が紀元14年に鑄造した貨幣で、中央の方孔の表面右側に「貨」、左側に「泉」の字を鑄っています。ともにごく少数の遺跡から僅かしか出土していない貴重な遺物です。また「貨泉」は流通した時期が限定されますので、出土した遺跡や遺構の時代を知る手掛かりになる重要な遺物でもあります。



杉原敦史「原の辻遺跡から出土した貨幣」原の辻ニュースレター第5号  
2000年1月28日による